

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2071号 2011年06月20日(月)

《 Greek week 》

今週は週の前半はギリシャを巡るユーロの動きが中心になり、その中でリスク回避の動きが強まれば、最近いくら「リスク回避通貨」から徐々に脱しつつあるといえども円には上昇圧力がかかるでしょう。もっともギリシャを中心に置く「EUとユーロの危機」は十二分に予測・懸念され、かつ織り込まれている可能性もあるので、ギリシャ危機にある程度のメドがつけばその後はユーロの巻き戻しの動きになる可能性がある。円は一時的に高くなっても、また下がる可能性が高いと思っている。

今ギリシャが置かれている状況を端的に言えば、「新たな借り入れ（またはそれに關する保証）がなければやっていけない状態を、どうEU全体として乗り切るか」ということです。去年の5月にギリシャはEUやIMFから総額1100億ユーロの支援を受けた。しかしその後もギリシャは非常に高い金利（19%に接近したこともありました）を払わなければ市場からお金を引けない状態が続いている。市場のギリシャに対する懸念が強いからだ。そうした中で今後3年間の債務償還が不安だし、今後の償還は今月末とか8月に迫っている。そこで、「去年並の1000億ユーロを超える新たな支援策」（ギリシャのパパンドレウ首相）をこの数日間の間にEUや国際機関が決めなければ、ギリシャが実質的に市場から閉め出されてデフォルト（国家の債務不履行）になる可能性が高まる、という状況です。

しかしその為には、まず去年約束した280億ユーロの国内財政引き締め措置を国会通過させる必要がある。これがなければ、ギリシャのやる気のなさが露呈して、市場がギリシャを信頼しなくなる。政府の統治能力の喪失を意味するからだ。しかし、今のギリシャの政権党は国会で過半数をわずかに5票上回る状況で、そのうち一人は「引き締め策反対」を既に表明して反旗を翻している。さらに国内の一部の労働組合や学生運動を展開する人々は、緊縮策に抗議して万の動員単位でデモを繰り広げている、という状況。

これ対してフランスやドイツの国内には、「少なくとも一部は自分たちの税金が使われてギリシャが救済されること」に対する政治的反発が強まっている。ギリシャを助けてどうなるのだ、というもっともな意見だ。EUを形成する主要国の政治家としてはEUとしての一体感の維持が必要だが、一般のフランス、ドイツの国民にとっては「そんなことは関係ない。ギリシャ自体がやる気がないのだから切り離しても良いのでは」と考え

る。

そういう意味では、今回のギリシャ危機は政治的に各関係者が“煮詰まってきている”という意味では去年の危機よりも深刻だと言える。欧州全体で「またギリシャか」という空気は強いでしょうし、「どこまで支援したら、ギリシャをユーロの枠内にとどめておくことが出来るのか」「そのコストはあまりにも高くないのか」という疑念が、欧州の北の諸国の中からも出てきそうな状況である。

ギリシャのパパンドレウ政権も、野党に大連立を提案して実質的に拒否されたり（野党は IMF や EU との再交渉を要求）、不人気だった財政担当の大臣をすげ替える内閣改造をしたりと、懸命の努力をしているが、何せ政界ばかりでなく国民の間にも「財政の緊縮化」にアレルギーが高い。しかしそれがまた、ドイツの国民からすると「何を甘えている」という反発に繋がっている。

EU としてギリシャを切れないのは、落ちこぼれのないように進む欧州の姿そのものが欧州の政治的一体性の維持の証だし、それ故に欧州の政治的発言力が高まっているという事実がある。ギリシャの国民はそれを知っているのに、「欧州はギリシャを切れない」と容易には緊縮策を飲もうとはしない。しかし、それをフランスやドイツの国民は快く思っていない、ということになっている。

《 contagion 》

ギリシャの問題が複雑なのは、contagion（感染）の源だと考えられている点です。つまりギリシャ病の欧州での蔓延が懸念される状況にある、という点です。ポルトガル、アイルランドなどが一番手に感染しそうだし、その次にはスペインなども控えている。いずれも財政が厳しい状況です。つまり、ギリシャが仮に「デフォルト」ということになれば、欧州の南半分の国々やアイルランドが非常に厳しい状況、つまり市場での借入れが出来なくなる危険性が出てくるのです。ではそれらの国々を全部 EU が助けられるかと言ったら、それは無理でしょう。EU の準備された資金は枯渇しかねないし、新たな資金の提供はフランスやドイツの世論の反発を招く。

だから、ギリシャ国民が「引き締め」をある程度受け入れ、それを北の諸国が評価して、ギリシャが市場から信認を受けることが必要だが、そうは問屋が卸していない。すでに、アメリカの格付け機関の中には、国としてはギリシャを最低の格付けレベルに落としているところもある。デフォルトになる前にギリシャはこうした格付け機関から「実質的デフォルト」を宣言される危険性すらある。

今週は、そうした緊張感の中で始まる週です。20日までのEU財務相会合ばかりでなく、トリシェECB総裁の欧州議会経済金融委員会で証言（ブリュッセル）も注目を集めるでしょう。先週も取り上げたアメリカの景気鈍化に、バーナンキ率いるFRBがどう対処するのか、しないのかも注目です。今週はFOMCも開かれる。声明が発表されるのは日本時間の木曜日の早朝です。おそらくQE2の打ち切りはやめない。しかしフェデラルファン

ド金利は“超”が付く低い水準を続ける、と表明すると思われます。今のアメリカ経済は利上げには堪えられない。

そういう意味で、アメリカの景況も大きな材料です。先週発表された小売売上高は「0.7%の減少」という予想が、「0.2%減」とどまった。しかしそれでアメリカの景気の先行きが心配ないかということそうではない。今週は、中古住宅販売件数などが発表される。住宅関連指標は注目である。

今週の主な予定は以下の通り。

6月19日(日)	EU財務相会合(20日まで)
6月20日(月)	5月貿易統計 5月コンビニエンスストア売上高 6月月例経済報告 トリシェECB総裁が欧州議会経済金融委員会で証言 (ブリュッセル)
6月21日(火)	4月全産業活動指数 米5月中古住宅販売件数 米FOMC(22日まで)
6月22日(水)	5月チェーンストア売上高 バーナンキ米FRB議長の記者会見
6月23日(木)	EU首脳会議(24日まで) 米5月シカゴ連銀全米活動指数 米新規失業保険申請件数 米5月新築住宅販売件数
6月24日(金)	5月企業向けサービス価格指数 米5月耐久財受注 米1-3月期GDP(確定値)

《 have a nice week 》

週末はいかがでしたか。土曜日は最初から予報が悪かったから仕方がないとして、日曜日はもうちょっと明確に晴れるのかと思ったら、相変わらずのはっきりしない天気でした。沖縄はもう梅雨明けしていますが、関東はまだまだの天気が続きます。

ところで先週は日本中が騙された週でしたね。あるお菓子のコマーシャルにAKB48が採用されたのですが、そのコマーシャルのセンターポジションに「総選挙」で一位二位を争った前田、大島両スターなどではなくて江口愛美さんという新人が起用されたこと。彼女、週刊誌の表紙に登場するなど話題になっていた。

しかし今日正式に明らかにされたのですが、実はこの江口さんは一緒にCMに出演して

いるAKB48の板野友美さん（19）、大島優子さん（22）、篠田麻里子さん（25）、高橋みなみさん（20）、前田敦子さん（19）、渡辺麻友さん（17）の6人の顔のパーツを組み合わせたコンピュータグラフィック（CG）だった。CMはウェブサイトのほか、このお菓子メーカーがスポンサーを務める「SMAP×SMAP」（フジテレビ系）など今日のテレビ番組で放送されるという。

名前が製品に似ているとか、誕生日が当該企業の創業記念日と一緒だとか、自己紹介に「先輩の良いところを少しずつもらって」と書いてあったことから、最初から「ちょっとおかしい」と言われていたが、やはりという印象。雑誌の表紙にもなっていることから、「こんな事をしてもしいいのか」という批判の声もあった。「CMは、AKB48のメンバーがもし合体してひとりの女の子になったらどんな子になるか……という思いから企画された」そうで、江口さんは鼻は板野友美さん、髪は大島優子さん、口は篠田麻里子さん、輪郭は高橋みなみさん、目は前田敦子さん、眉は渡辺麻友さんと、各メンバーのパーツを組み合わせているという。また、声はAKB48の12期研究生・佐々木優佳里さん、体は大島優子さんという。

これからも、なんだか分からない超美人、超可愛い子が出てきたら疑ってみる必要があるような話でした。

それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は住信基礎研究所首席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》